

大阪樟蔭女大学芸 辻 昭二郎

○武田 秋子

1. 市販のみかん缶詰の実体について調査した。
2. 昭和44年11月と昭和45年6月の2回にわたり、その品質とJAS規格に対する合否等について検査した。
3. 44年度の場合は検体38個中約47%が何等かの点でJAS規格に外れていた。特に固形量の不足が約40%もあり、明らかに不良缶の許容範囲を越えていた。又品質や味の点もメーカーによりかなり差があり、検査した測定値の缶によるバラツキから見ても、品質管理面で大きな差がある事が示された。味その他を総合した結果、一応の水準と認められたものは10種(ブランド別)中1種に過ぎなかった。45年度の場合はJAS規格外れは約10%に減少した。これはチクロ禁止に伴う付随的影響で規格等に対する関心が急速に高まった事が主原因と考えられる。又人工甘味併用品が全く姿を消し、JASマークの表示品が8割を占め、全てが天地塗装缶で plain cans が無く、製造年月日の古いものが殆んど無かった。従って錫の溶出量も150 ppm を越えたものは殆んど無かった。然し製造年月日の古いもの、酸度の高いもの、真空度の低いものは一般に錫の溶出量が高かった。この事は缶の腐蝕状態からも推察出来た。JAS規格より見ると45年度は44年度に比し規格外れは著しく減少したが、その品質は相変わらず改善されていなかった。特にみかんの熟度、製造工程の管理不良と考えられる果肉軟化の問題の改善と、酸度の管理が必要であると考えられる。